

(別添)

# 遠賀中間医師会おんが病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定

【遠賀中間医師会おんが病院の基本情報】

医療機関名：一般社団法人遠賀中間医師会 遠賀中間医師会おんが病院

開設主体：一般社団法人 遠賀中間医師会

所在地：福岡県遠賀郡遠賀町大字尾崎1725番地2

許可病床数：100床

（病床の種別）

一般病棟 7 対1入院基本料 92床

ハイケアユニット入院医療管理料 8床

（病床機能別）

高度急性病床 8床

急性期病床 92床

稼働病床数：100床

（病床の種別）

一般病棟 7 対1入院基本料 92床

ハイケアユニット入院医療管理料 8床

（病床機能別）

高度急性病床 8床

急性期病床 92床

診療科目：内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科  
呼吸器外科、糖尿病内科、脳神経外科、放射線科、リウマチ科、麻酔科  
救急科、リハビリテーション科

職員数：

- ・ 医師 常勤 17 名、非常勤 11 名
- ・ 看護職員
  - （看護師） 常勤 105 名 非常勤 20 名
  - （保健師） 常勤 3 名
  - （准看護師） 常勤 4 名
  - （看護補助者） 常勤 17 名 非常勤 4 名
- ・ 専門職
  - （薬剤師） 常勤 7 名
  - （診療放射線技師） 常勤 6 名
  - （理学療法士） 常勤 10 名
  - （作業療法士） 常勤 2 名
  - （言語聴覚士） 常勤 2 名
  - （臨床工学技士） 常勤 1 名
  - （臨床検査技師） 常勤 8 名 非常勤 1 名
  - （管理栄養士） 常勤 4 名
  - （社会福祉士） 常勤 2 名
- ・ 事務職員 常勤 45 名 非常勤 8 名

## 【1. 現状と課題】

### ① 構想区域の現状

当院の属する二次医療圏：北九州医療圏

○地域の人口及び高齢化の推移

- ・北九州医療圏の総人口はすでに減少局面に入っており、65歳以上人口は平成 32（2020）年がピーク、75歳以上人口は平成42年（2030）年がピークと予想されている。
- ・当院が主に医療を提供している中間市・水巻町・遠賀町・岡垣町・芦屋町の人口も減少しており、おおむね北九州医療圏全体同様の推移となる。

※北九州医療圏の将来人口推計

		2015 年 国 勢 調 査 時	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年
北九州 医療圏	65 歳～	320,186	348,174	347,240	340,279	334,256	335,100
	75 歳～	156,927	185,608	213,185	221,235	213,996	204,239
	総人口	1,096,744	1,066,756	1,027,674	983,862	936,879	887,900

※中間市の将来人口推計

		2015 年 国 勢 調 査 時	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年
中間市	65 歳～	14,585	14,849	14,200	13,071	11,984	11,321
	75 歳～	7,140	7,770	8,675	8,734	8,015	7,048
	総人口	41,796	39,172	36,486	33,704	30,931	28,249

※水巻町の将来人口推計

		2015 年 国 勢 調 査 時	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年
水巻町	65 歳～	8,754	9,666	9,730	9,465	8,954	8,630
	75 歳～	4,132	4,821	5,611	5,973	5,818	5,475
	総人口	28,997	27,599	26,166	24,592	22,927	21,201

※遠賀町の将来人口推計

		2015 年 国 勢 調 査 時	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年
遠賀町	65 歳～	5,798	6,274	6,255	5,943	5,524	5,379
	75 歳～	2,613	3,109	3,686	3,931	3,748	3,389
	総人口	18,877	18,263	17,588	16,786	15,903	15,001

※岡垣町の将来人口推計

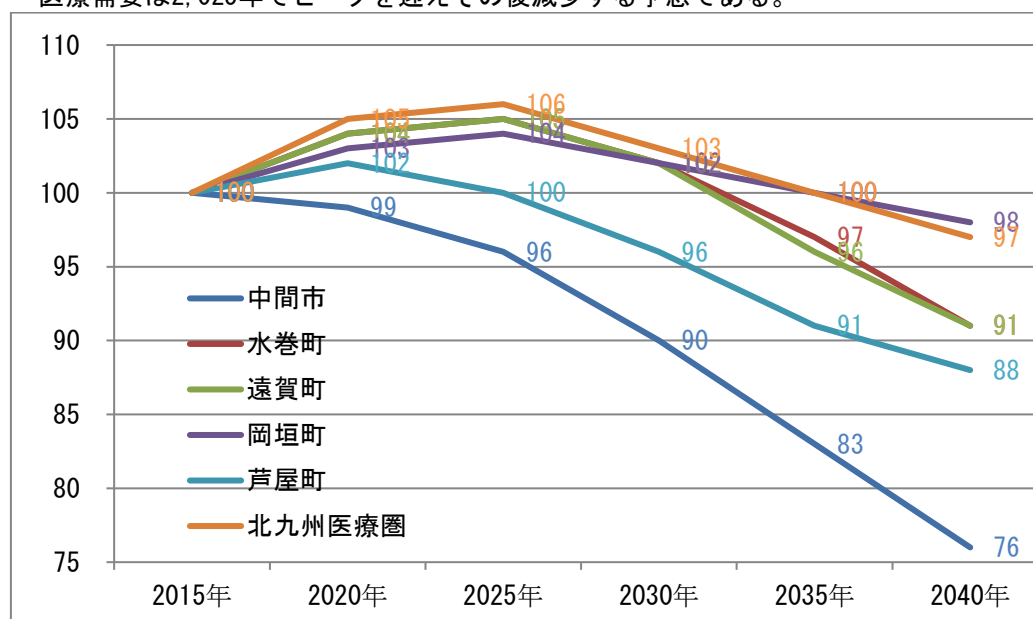
		2015 年 国 勢 調 査 時	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年
岡垣町	65 歳～	9,821	10,240	10,224	9,979	9,751	9,904
	75 歳～	4,924	5,400	6,111	6,422	6,259	5,937
	総人口	31,580	31,761	31,156	30,436	29,629	28,750

※芦屋町の将来人口推計

		2015 年 国 勢 調 査 時	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年
芦屋町	65 歳～	4,108	4,323	4,178	4,022	3,936	3,928
	75 歳～	2,083	2,298	2,566	2,627	2,456	2,311
	総人口	14,208	13,834	13,016	12,180	11,348	10,537

○地域の医療需要の推移（2015年実績＝100）

・医療需要は2,025年でピークを迎えその後減少する予想である。



○地域の医療需給の特徴

- ・北九州医療圏は人口10万人対の一般・療養病床の数、及び医師の数は全国平均を上回り、医療資源は豊富である。
- ・自己完結率は救急で 97.5%、くも膜下出血で 97.5%、急性心筋梗塞 100%、悪性腫瘍 96.5%、小児の入院体制で 97.8%と非常に高く、医療提供体制は全般的に充実した状況であり、周辺区域からも患者が流入している状況である。
- ・当院がカバーしている地域は北九州のベッドタウンが主であり、当院の外来、入院は主に岡垣町であり、年齢層別では比較的高齢化率が低く他の地域と合わせても対象となる人口の変動は比較的少ないと考えられる。しかし、高齢化が進んだ場合、北九州市内へアクセスは悪く交通便など考慮すると十分な医療提供に懸念が残る。そのため遠賀・中間で、ある程度の医療完結を行う必要性が高いと考えられる。

② 構想区域の課題

- ・ 必要病床数の推計値と現状の病床数との比較では回復期が 2,411 床不足する見込みである。
- ・ 高度医療機関が集積し、高度急性期、急性期について広域的に医療提供を支える役割を果たしつつ、高齢化の進展に伴い増加する慢性期・在宅医療等の医療需要に適切に対応することが必要である。

平成 37（2025）年の病床の機能別の医療需要と必要病床数（医療需要は 1 日当たりの患者数）

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合 計
北九州 医療圏	医療需要	1,413 人	4,132 人	4,343 人	3,738 人	13,626 人
	必要病床数	1,883 床	5,296 床	4,825 床	4,062 床	16,066 床

《必要病床数と病床機能報告の比較》

（単位：床）

構想 区域	病床の 機能	必要 病床数 (2025) (A)	病床機 能報告 (2015) (B)	差 引 A-B
北九州医 療圏	高度急性期	1,883	1,669	+214
	急性期	5,296	7,357	▲2,061
	回復期	4,825	2,414	+2,411
	慢性期	4,062	5,569	▲1,507
	合 計	16,066	17,009	▲943

- ・ 小児の在宅医療の体制が不十分であり、また小児の在宅患者のレスパイト入院等の受入体制の整備も必要。

### ③ 自施設の現状

#### ○自施設の理念、基本方針等

- ・理念：患者さんとそのご家族、地域の皆さん、そして職員とその家族から信頼され、愛される病院を目指す。
- ・基本方針
  - ①患者さんにご家族への優しい思いやりと慈しむ心を持ち、安全で質の高い医療を提供。
  - ②地域の皆さんを大切にしたい地域完結型の医療・福祉を目指す。
  - ③人間性豊かな医療人を育成し、働いていることに喜びと誇りを持てる職場を作る。
  - ④病院のしっかりした土台作りに力を注ぐ。

#### ○自施設の診療実績

入院	H24	H25	H26	H27	H28
在院患者延べ数	35,178	34,367	35,107	35,324	37,266
新入院患者数	2,533	2,389	2,373	2,420	2,564
退院患者数	2,541	2,375	2,374	2,420	2,551
平均在院日数	12.7	13.1	14.8	14.2	14.5
病床利用率	89.4	87.6	89.7	89.9	95.0
1日平均新入院患者数	6.9	6.5	6.5	6.6	7.0
病床稼働率	96.4	94.2	96.2	96.5	102.1

外来	H24	H25	H26	H27	H28
外来患者延べ数	32,177	33,369	35,878	35,331	37,165
新規患者数	3,665	3,426	3,191	2,981	3,034
1日平均患者数	131.1	136.8	147.0	145.4	152.9
1日平均新患者数	15.0	14.0	13.1	12.3	12.5

紹介・逆紹介率	H24	H25	H26	H27	H28
紹介率	79.5	69.3	77.6	90.1	84.3
逆紹介率	57.9	59.0	61.9	72.9	72.2

救急車搬入数	H24	H25	H26	H27	H28
救急車搬入数	690	598	604	785	1,106

#### ○自施設の職員数

- ・医師 常勤17名、非常勤11名
- ・看護職員
  - (看護師) 常勤 105名 非常勤20名
  - (保健師) 常勤 3名
  - (准看護師) 常勤 4名
  - (看護補助者) 常勤 17名 非常勤4名

・ 専門職

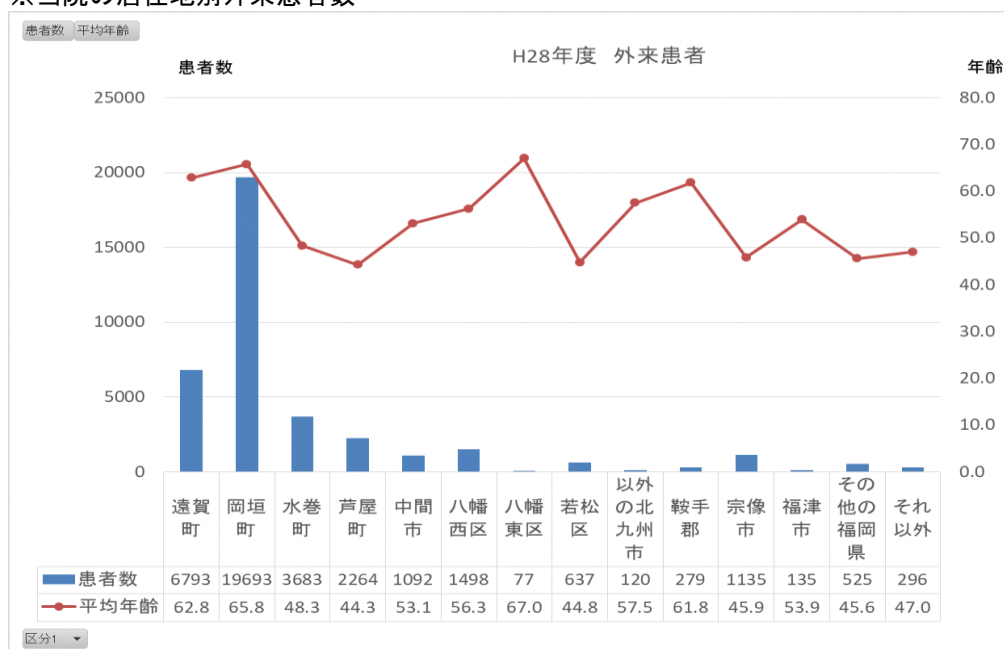
(薬剤師) 常勤 7 名  
(診療放射線技師) 常勤 6 名  
(理学療法士) 常勤 10 名  
(作業療法士) 常勤 2 名  
(言語聴覚士) 常勤 2 名  
(臨床工学技士) 常勤 1 名  
(臨床検査技師) 常勤 8 名 非常勤 1 名  
(管理栄養士) 常勤 4 名  
(社会福祉士) 常勤 2 名

・ 事務職員 常勤 45 名 非常勤 8 名

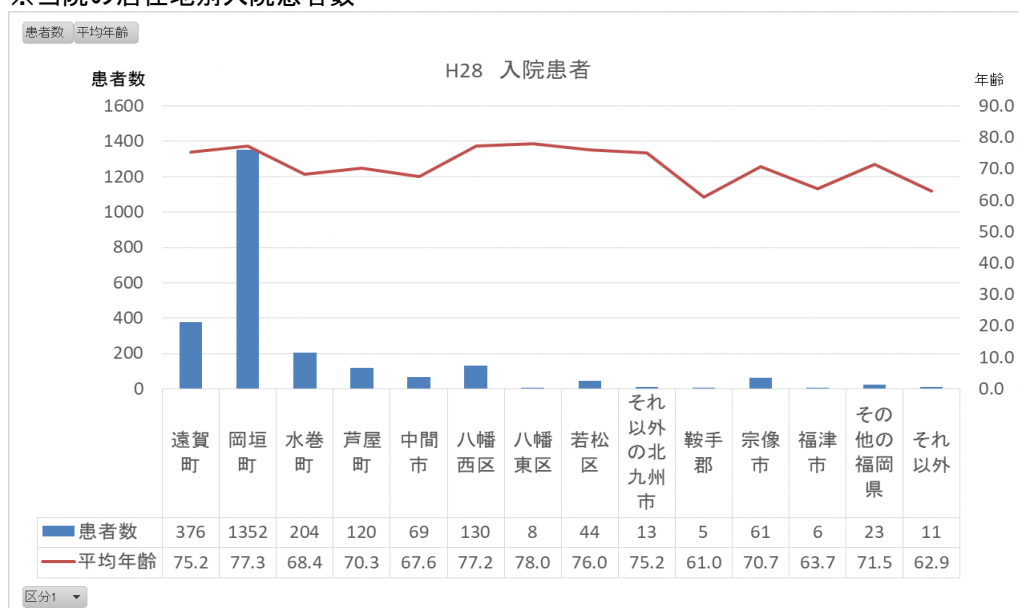
○ 自施設の特徴

- ・ 当院は、主に遠賀郡 4 町及び中間市の急性期医療を担う100床の病院である。診療科目として内科・循環器内科・呼吸器内科・糖尿病内科・消化器内科・外科・呼吸器外科・整形外科・救急科・小児科・脳神経外科・リウマチ科・リハビリテーション科・麻酔科・放射線科を標榜している。救急病院の指定を受け、24時間救急患者を受け付け、HCUを8床備えている。また、地域医療支援病院及び在宅療養支援病院の認定も受け、1市4町の地域の基幹病院としての役割を果たしている。他には院内に1市4町の事業として小児科の医師の協力のもと「病児・病後児の保育施設」を設置して病気のために保育園や幼稚園で預かる事ができないお子さんをお預かりしている。
- ・ 当院の入院患者の平均年齢は75歳前後で、肺炎の患者の割合が高くなっている。
- ・ 中間市・遠賀郡エリアの西部地域(遠賀町・岡垣町・芦屋町)と宗像・鞍手エリアもカバーしている。
- ・ 診療エリアは高齢者率が高く、地域医療支援病院、救急告知病院、在宅療養支援病院として、救急医療や訪問診療・往診とクリニックが対応できない医療の提供を率先して実践している。
- ・ 地域柄もあり肺炎系の入院患者が多く、また認知症患者もおり、入院期間も長くなる傾向であるが、系列病院に地域包括ケア病棟、回復リハ病棟、療養病棟があり、地域包括医療が実践できている。
- ・ 地域医療支援病院として地域の歯科医師会や薬剤師会、中間市、遠賀郡 4 町と年 4 回会議を通じ緊密な情報交換を行っている。
- ・ 福岡県の補助金により在宅総合支援センターを立ち上げ、地域包括ケアシステムの構築に向け、医療・介護・福祉・行政からなる地域在宅医療介護連携推進協議会を設置し連携を図っている。
- ・ 当医師会により24時間体制の訪問看護ステーションが稼働しており、バックアップ病院として連携を図っている。

## ※当院の居住地別外来患者数



## ※当院の居住地別入院患者数



## ④ 自施設の課題

- ・当院には脳神経外科の常勤の医師が確保できず、脳疾患の救急の受入体制が現状出来ない状況である。
- ・今後、高齢化傾向が高くなるが、認知症のスペシャリストの育成が急務である。現在は医師1名が認知症サポート医研修終了しており、今後、認知症認定看護師の育成を行う。
- ・北九州医療圏は北九州市と中間市・遠賀郡で構成されているが人口割合は約9:1と圧倒的に北九州市が多く格差がありすぎるが地域医療構想では北九州医療圏1本で評価されるため不利である。



【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・北九州医療圏において広範囲の西部地域からでは北九州市へのアクセスが問題となり、当該地域の救急医療および癌治療を含む一般診療の充実が必要である。  
そのため、現状の24時間急患、救急車受け入れ体制および外科・整形外科手術の継続を行う必要がある。また、小児医療の過疎化を防ぐため小児科の一般診療および入院機能を継続する。
- ・急変の可能性が高い高齢者が多い施設と連携・医療的指導を中心的に担う。
- ・高齢者に多い認知症を合併した疾患に対応する急性期病院として認知症サポートチームの構築を行い、近隣の精神科と連携する。
- ・地域医療の自己完結型として救急医療、急性期医療の継続と回復期への橋渡しとして関連病院であるおかがき病院(地域包括病床および回復期病床機能を有する)と連携し、在宅医療へ繋げる。
- ・在宅医療への推進のため訪問診療の強化、訪問看護との連携強化をはかり、急性増悪期にはバックアップ病院として機能を果たす。

② 今後持つべき病床機能

- ・当病院がカバーしている地域の高齢化率は北九州市と同様な動向である。遠賀町・芦屋町の人口減少が顕著であるが当院の対象となっている65歳以上の人口はほぼ横ばいであることと、入院および外来患者の主な対象地域は岡垣町であり人口動態は北九州市よりも人口減が少なく、対象者の数は今後も現在とほぼ変わらないと推察される。  
そのため、対象となる癌治療、骨折および肺炎の治療数は横ばいで推移するものと考ええる。  
外科的治療にいて、現在、外科、整形外科、呼吸器外科にて手術が行われ月40-50件の手術件数である。全身麻酔下も約半数の手術で行われるため心肺機能が低下した高齢患者への対応のためハイケアユニットの維持も必要と考える。  
内科的疾患において今後、誤嚥性肺炎、心疾患および脳卒中疾患の対象者の人口が横ばいであるため、高齢化率の上昇に伴い2030年までは増加すると考えられる。前記疾患は緊急性が高く迅速な初期対応が求められる。特に、当病院の西部地域は広域にわたるため、搬送時間など考慮すると、救急車受け入れおよび重症者に対する迅速な高度の医療の提供が必要であるため現状のハイケアユニットの維持と急性期病床の数の維持が必要である。
- ・小児科に関しても、主な対象地域は岡垣町であり、小児に人口比率は高く小児科の需要が続くと思われる、また、北九州市内への入院施設へのアクセスが悪く小児科の対しても現状の外来・入院機能が必要であると考えられる。病床数に関しては成人と混合病棟で対応する。

上記より、今後も対象疾患、対象者数に関してほぼ横ばいであり、当院の近隣から広範囲な西部地域にて急性期病院は当院のみである。現状当院の平均在院日数14日程度、病床稼働率は100%程度で推移している。そのため今後も急性期病院としての超急性期病床および急性期病床体制維持および強化が今後も必要である。

③ その他見直すべき点

- ・急性期を乗り越えた患者の回復期病院へのスムーズな転院および在宅医療への推進。
- ・急性期病床の維持のためには医師数、看護師数、看護補助数の確保が重要である。特に、看護補助者の数が不足しているため待遇改善の検討が必要である。
- ・当該地域の訪問診療は現状不十分であり、当院が中心に行っている。マンパワー的に不足しているため、近隣の診療所との連携を図る。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	8	→	8
急性期	92		92
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	100		100

- ・地域の急性期医療の基幹病院として当院の病床機能は現状維持を続ける。
- 回復期・慢性期医療については遠賀中間医師会おかがき病院で対応する。

＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急患・救急車受け入れ</li> <li>・看護補助者の確保</li> <li>・循環器医師増員</li> <li>・訪問診療強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急患・救急車100%受け入れ</li> <li>・日勤10人、夜勤2人</li> <li>・循環器医師外来医師増加</li> <li>・近隣に訪問診療医師への参加の呼びかけ</li> </ul>	<div>集中的な検討を促進</div> <div>2年間程度で</div> <div>第7期 介護保険 事業計画</div> <div>第7次 医療計画</div>
2018年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急患・救急車受け入れ</li> <li>・脳疾患・認知症に対応できる診療科を新設。</li> <li>・循環器医師常勤医師増員</li> <li>・訪問診療強化</li> <li>・医療従事者の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急患・救急車100%受け入れ</li> <li>・外来開設</li> <li>・循環器医師常勤医師増加</li> <li>・近隣医師との連携強化</li> <li>・医療従事者の確保</li> </ul>	
2019～2020 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急患・救急車受け入れ</li> <li>・脳疾患・認知症に対応できる診療科を新設</li> <li>・循環器医師常勤医師増員</li> <li>・医療従事者の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急患・救急車100%受け入れ</li> <li>・外来開設</li> <li>・循環器医師常勤医師増加</li> <li>・医療従事者の確保</li> </ul>	
2021～2023 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急患・救急車受け入れ</li> <li>・脳疾患・認知症に対応できる診療科を新設</li> <li>・医療従事者の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急患・救急車100%受け入れ</li> <li>・脳疾患・認知症対応医師の常勤化</li> <li>・医療従事者の確保</li> </ul>	<div>第8期 介護保険 事業計画</div>

## ② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

＜今後の方針＞

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、呼吸器外科、糖尿病内科、脳神経外科、放射線科、リウマチ科、麻酔科、救急科、リハビリテーション科	→	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、呼吸器外科、糖尿病内科、脳神経外科、放射線科、リウマチ科、麻酔科、救急科、リハビリテーション科
新設		→	脳疾患・認知症に対応できる診療科を新設。
廃止	なし	→	
変更・統合	なし	→	なし

・遠賀町、岡垣町、芦屋町には脳の外傷及び疾病に対応出来る急性期医療機関がないため。

## ③ その他の数値目標について

### 医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：100%
- ・ 手術室稼働率：月60件以上
- ・ 紹介率：80%以上
- ・ 逆紹介率：70%以上

### 経営に関する項目\*

- ・ 人件費率：52%～53%（現状55%）
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：1%

その他：

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

## 【4. その他】

（自由記載）

当院の二次医療圏は北九州医療圏であるが、遠賀中間地域の人口と北九州市の人口では多大な乖離があり、北九州医療圏をベースとした統計データは参考にできないため、当院の状況に即した分析データを提供していただきたい。